状況に置かれております。
　漁業については、今年度完成予定の種苗生産等施設により、養殖昆布やウニなどの持続可能な前浜資源の確保を目指してまいります。なお、施設管理にあたっては、効率化、維持費等のコスト削減を図るため、指定管理者制度の下での管理を検討してまいります。
　また、コンブ養殖漁業については、陸上作業における人員確保等が喫緊の課題となっており、これらの課題解決に向けて、養殖作業の省力化・効率化を図るため、「昆布養殖作業省力化検討計画」を策定してまいります。
　漁業生産基盤である漁港の整備については、引き続き第３種福島漁港の荷揚げ岸壁拡幅工事及び第２種吉岡漁港の橋梁架替工事が進められており、令和６年度の供用開始に向けて関係機関と連携しながら、機能向上に努めてまいります。
　蝦夷アワビの陸上養殖については、養殖技術の確立により一年を通じて出荷体制が整いつつあり、引き続き、安定的な出荷の確保に向けた取り組みを推進してまいります。
　また、アワビカレーやフードツーリズムなどを通じて、販売促進に努めてまいります。
　農業については、営農者の減少・高齢化が著しく、後継者不足も相まって、当町の農業の維持・持続が大変厳しい状況にありますが、引き続き農業の担い手育成に努めるとともに、農業用機械整備の支援を行うなど、就農者の確保と生産者の負担軽減に努めてまいります。
　林業については、森林の持つ公益的・多面的機能を将来にわたり持続的に享受できるよう、「福島町森林整備計画」に基づき地域資源の循環を推進するため皆伐事業を実施するとともに、地拵（じごしら）えや再造林の施業を進めてまいります。また、林道や作業道の適正管理に努めるなど、木材搬出の効率化を図ってまいります。
　国は、２０５０年までに温室効果ガスの排出をゼロにするカーボンニュートラルを目指すことを宣言しております。
　町では、今年度建設の新たな吉岡温泉に木質バイオマスボイラーを導入し、当町の持つ豊かな森林資源の活用を図ることで、地域循環の活性化及びゼロカーボンの実現を目指してまいります。また、これらの体制整備の構築に向けた支援を検討してまいります。
　近年、当町ではエゾシカによる農作物や森林への食害が増大しております。町では、ハンターの育成を強化するとともに、巡視回数を増やすなどし、有害駆除により農林業被害の防止に努めております。しかし、有害駆除は捕獲後の解体に相当の時間を要すなど、ハンターの作業負担の軽減が課題となっております。このことから、町では、新たに「有害鳥獣処理施設」を整備し、エゾシカ等の処理の効率化を図るとともに、駆除頭数の増加に向けた対策を促進してまいります。

罠を使用しエゾシカを捕獲する様子

　町内の商工業は、人口減少やインターネット通販の拡大、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、町内事業者を取り巻く環境は大変厳しい状況となっております。
　このようなことから、町内経済の循環を目的としたプレミアム商品券の発行などを継続的に行い、商工会と連携しながら、町内事業者の経営安定が図られるよう支援してまいります。
　地域での生産力の底上げを図るため、町内で新たに起業者や事業を継承する若者等の後継者に対し、引き続き「チャレンジスピリット応援条例」に基づき経済的支援を実施し地域経済の振興に努めてまいります。
　ふるさと納税制度については、地元事業者と連携を図り魅力ある返礼品の充実とふるさと納税の増収に努めるとともに、新たに企業版ふるさと納税の取り組みを進め、さらなる増収を目指してまいります。なお、ふるさと応援基金については、寄附者の町に対する思いを具現化するため寄附金を有効活用してまいります。
　当町の地域資源を活用した「青の洞窟」をめぐる「岩部クルーズ」は、年々乗船者数も増加し、当町初の体験型観光として定着しつつあり、また、乗船を体験された観光客から高い評価をいただいております。
　引き続き安全運航を最優先に、地域資源の魅力の発信と交流人口の拡大を図ってまいります。

３　若者等の定住対策・子育て環境の充実

　持続可能なまちづくりを進めていくためには、若者の人口減少及び少子化対策は最重要課題として取り組む事項と認識し、これまで各種の施策を実施してまいりましたが、人口減少に歯止めがかからない状況が続いていることから、引き続き「ふるさと暮らし応援条例」をはじめとする子育て支援策を中心に、切れ目のない対策を講じてまいります。
　認定こども園については、子どもたちが快適で安心して過ごせるよう、これまで空調設備の整備など保育環境の充実に努めてきております。
　引き続き、保護者が安心して子どもを預かれる保育環境の整備を図りながら、保護者のニーズに柔軟に対応した保育・教育サービスの提供に努めてまいります。
　子育て支援センターについては、子育ての拠点施設の役割を担っており、子育